

**製品名: GFAP ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11410**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GFAP
別名	GFAP; Glial fibrillary acidic protein; GFAP
遺伝子 ID	2670.0
SwissProt ID	P14136
免疫原	抗血清はヒト GFAP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60

**背景**

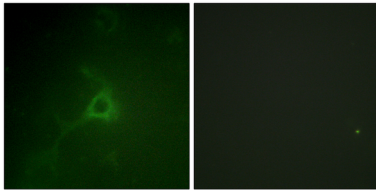
この遺伝子は、成熟アストロサイトの主要な中間径フィラメントタンパク質の1つをコードしています。これは、発達過程においてアストロサイトを他のグリア細胞と区別するためのマーカーとして用いられます。この遺伝子の変異は、中枢神経系アストロサイト

の稀な疾患であるアレキサンダー病を引き起こします。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008年10月], 代替産物: アイソフォームは、選択的エクソンによってコードされるC末端領域で異なります。、疾患: GFAPの欠陥は、アレキサンダー病 (ALEXD) [MIM:203450]の原因です。アレキサンダー病は、中枢神経系の稀な疾患です。アストロサイトの細胞質封入体であるローゼンタール線維の広範な蓄積を特徴とする進行性白質脳症です。最も一般的な病型は乳児および幼児に発症し、進行性の中核髄鞘形成不全を特徴とし、通常は10歳以内に死に至る。アレキサンダー病の乳児は、大頭症、発作、精神運動発達遅滞を伴う白質脳症を発症する。若年型または成人型の患者は、典型的には運動失調、球徴候、痙縮を呈し、進行はより緩徐である。、機能: クラスIII中間径フィラメントであるGFAPは、中枢神経系の発達過程においてアストロサイトを他のグリア細胞と区別する細胞特異的のマーカである。、オンライン情報: GFAP エントリ,類似性: 中間径フィラメントファミリーに属する。、細胞内局在: 中間径フィラメントと関連する。、サブユニット: SYNMと相互作用する(類似性による)。アイソフォーム3はPSEN1と相互作用する(N末端を介して)。、組織特異性: フィブロネクチンを欠損する細胞で発現する。、

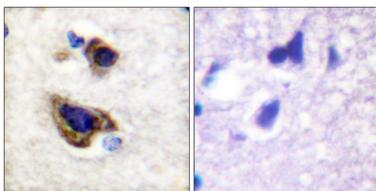
## 研究分野

神経科学

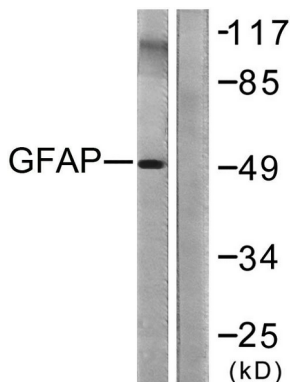
## 画像データ



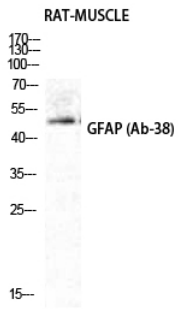
GFAP抗体を用いたCOS7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



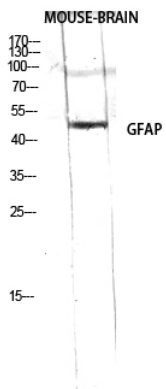
GFAP抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



COLO205細胞ライセートのGFAP抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



GFAP ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いたラット筋細胞のウェスタンブロット解析



1: 2000 に希釈した GFAP ポリクローナル抗体を用いた RAW のウェスタンブロット分析